

札幌市学校医協議会検尿判定委員会

星井 桜子、荒木 義則、佐野 仁美、楠 幸博、八十嶋弘一

【はじめに】

札幌市の学校検尿は小中高校生と公立幼稚園を対象に行われ、札幌市教育委員会から学校保健統計調査¹⁾として毎年発刊される。主に2017年度の成績について報告する。

【I. 札幌市の学校検尿判定方法】

尿潜血、尿蛋白は、一次検査で試験紙(+)以上を陽性とし、二次検査を行う。二次検査も陽性の場合、尿沈渣赤血球数と白血球数カウント、蛋白定量を行い、三次検査とする。この要精検判定基準は赤血球 ≥ 5 個/視野、白血球 ≥ 10 個/視野、蛋白定量 ≥ 30 mg/dlである²⁾。尿糖は、一次検査陽性者で糖定量を行い、50mg/dl以上を要精検とする。

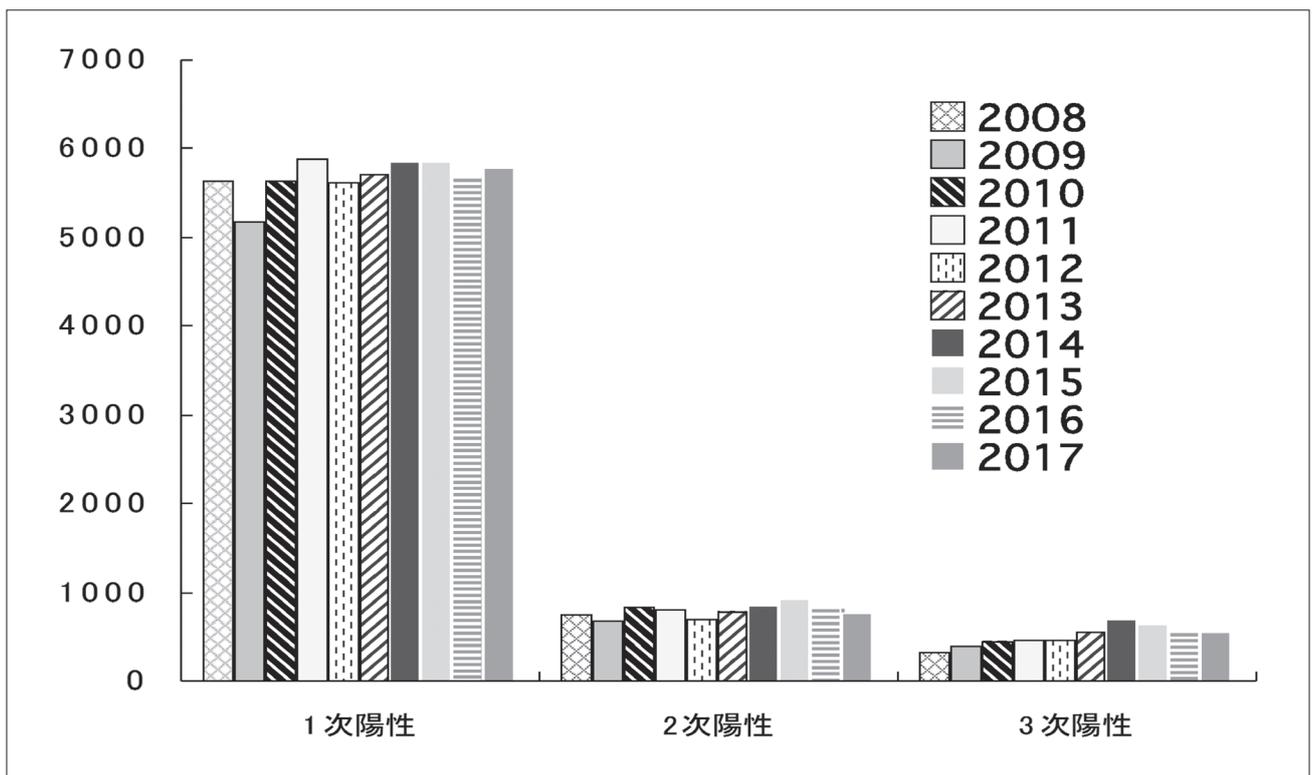
【II. 在籍者数と受検率】

2017年札幌市在籍の小児数は138,552名である。学校検尿受検率は、例年と同様、99%以上と高率であった。

【III. 一次、二次、三次陽性率と要精検率】

2008～2017年の一次、二次、三次陽性者数を図に示した。毎年ほぼ同様の傾向が見られる(図1)。

図1 札幌市学校検尿：1次・2次・3次検査陽性者数(2008-2017年)

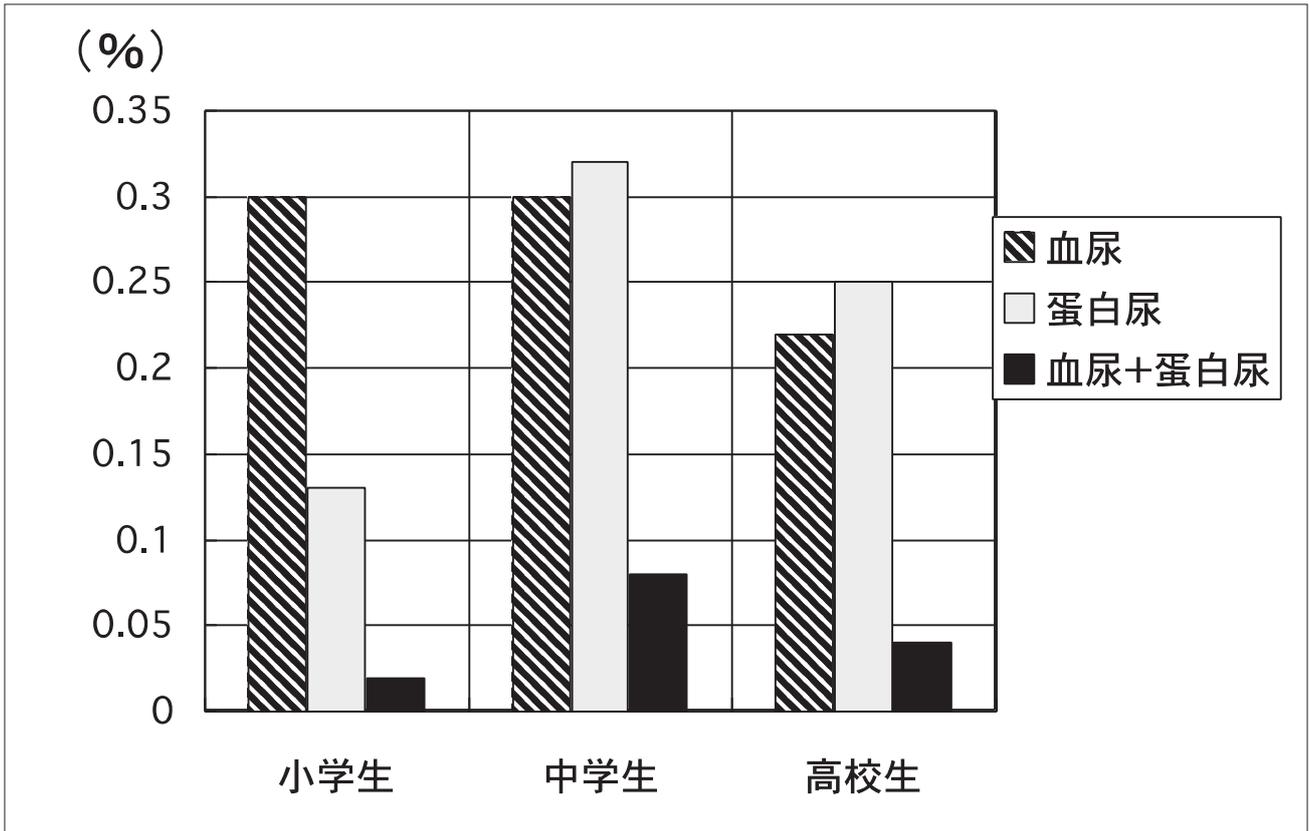


一次受検者における陽性率は4.1%、二次受検者における陽性率は10.7%、三次受検者における陽性率は59.8%だった。総受検者に対する要精検率は0.40%で、小学生0.28%、中学生0.6%、高校生0.67%だった。また、精密検査受検(病院受診)率は全体で61.5%と低く、原因について調査中である。

【IV. 二次陽性者の尿異常の割合(図2)】

潜血のみの陽性の割合は約55%、蛋白のみの陽性の割合は約37%、蛋白と潜血ともに陽性の割合は約7%であった。小学校では血尿のみの陽性者の割合が高く、中高校生では血尿のみ、蛋白尿のみの割合はほぼ同程度だった。

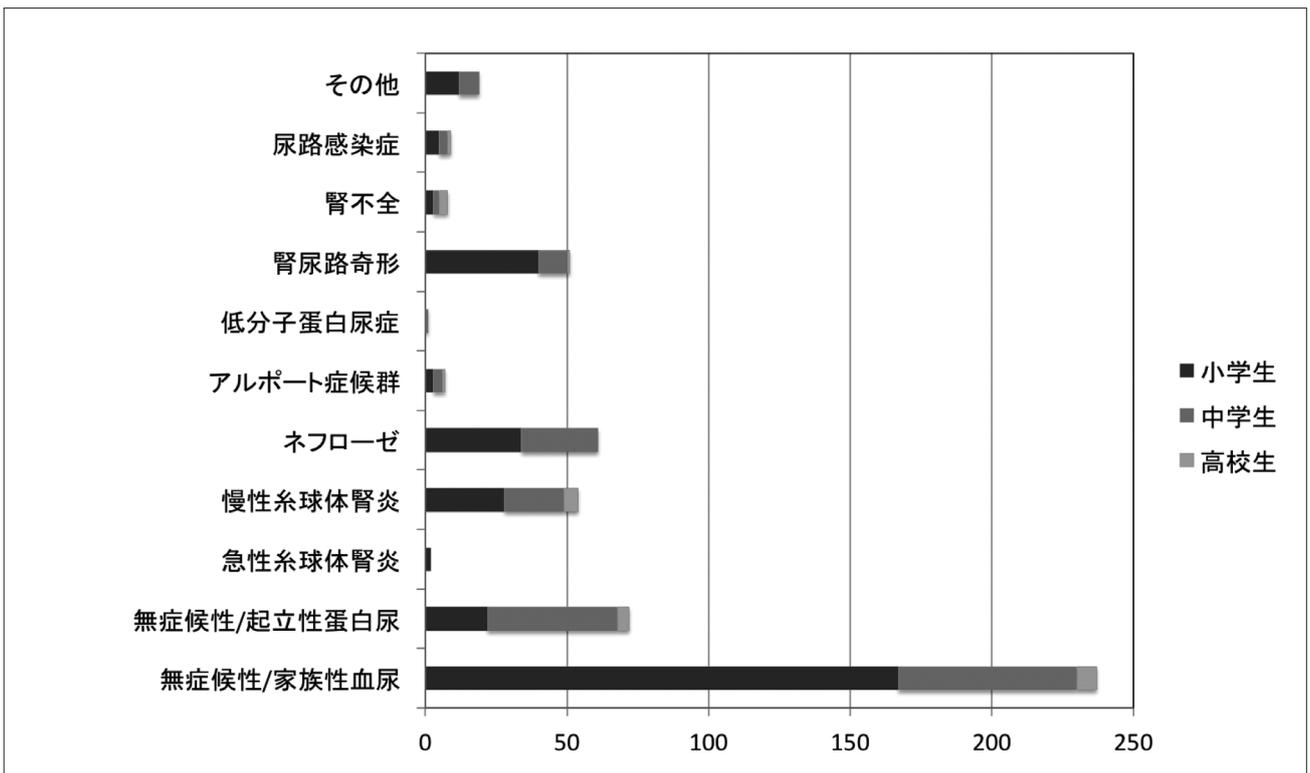
図2 札幌市学校検尿：尿異常の種類と頻度（2017年）



【V. 血尿・蛋白尿陽性者の病名（図3）】

例年と同様に、無症候性血尿および家族性血尿が多く、つづいて、無症候性蛋白尿および起立性蛋白尿、腎尿路奇形、慢性腎炎、ネフローゼ症候群であった。

図3 札幌市学校検尿：要精検者（潜血・蛋白陽性）の病名（2017年）



【おわりに】

2017年度の札幌市の学校成績を尿潜血、尿蛋白を中心に報告した。今回の傾向はほぼ例年同様であった。

【文献】

- 1) 学校保健統計調査。札幌市教育委員会生涯学習部保健給食課
- 2) 星井桜子他, 札幌市学校検尿成績と学校生活管理表の変更について。札幌市学校医協議会だより第19号、P39～P40, 2012。